

# 「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 平成26年度第1回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の平成26年度第1回推進会議を平成26年7月29日（火）に開催しました。

第1回推進会議には、6名の委員のうち4名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

会議の概要は、以下のとおりです。

## 「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

＜委員＞

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ  
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会  
専門委員会 委員長）

松本 真紀（社会人クラブチーム 小俣クラブ  
選手・バドミントン）

※北裏委員、堀越委員はご欠席

＜ファシリテーター＞

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部  
教授）



## ＜推進会議の進行概要＞

会議の進行概要は以下のとおり

開会 16:30  
スポーツ推進局長あいさつ

事務局からの報告

- ・夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクトについて
- ・平成25年度推進会議の概要について
- ・平成25年度プロジェクトの成果と検証について

プロジェクト推進についての意見交換

- ・みえのスポーツを支える人づくりについて（障がい者スポーツの推進について）
- ・スポーツによる地域の活性化について（「女性スポーツ」の推進について）

閉会 18:00

（事務局からの報告）

冒頭、世古スポーツ推進局長から委員の皆さんに本日の会議の開催趣旨について説明しました。

また、平成25年度推進会議の概要、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」を構成する2つの実施取組における平成25年度の実施状況及び本年度の取組について、事務局から説明しました。

※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

（プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、杉田教授の進行により、プロジェクトの推進に向けて、次の2つのテーマに基づき意見交換を行いました。

- みえのスポーツを支える人づくりについて
- スポーツによる地域の活性化について

## ※委員からの主な意見

### ○みえのスポーツを支える人づくりについて (障がい者スポーツの推進について)

- 障がい者スポーツについては、競技者・指導者の不足、競技団体の基盤が脆弱、団体間の連携不足といった、さまざまな課題がある。
- 東京で開催されるパラリンピック、三重県で開催される全国障害者スポーツ大会という、2大イベントを契機として、障がい者スポーツの推進を図る必要がある。
- 障がい者スポーツの推進については、現状で課題が多いため、全国障害者スポーツ大会までに普及と強化を一気に推進することは困難が予想される。大会後も見据えて、組織の整備を最優先するべきである。
- 障がい者スポーツの内部において、パラリンピックやスペシャルオリンピックス、デフリンピックといったさまざまな大会があり、団体間の連携が図られていないなど、他者から理解しにくい状況を作り出している一面もある。
- 障がい者スポーツについては、当事者以外の現状の理解不足が最大の課題である。
- 例えば、健常者スポーツと障がい者スポーツの競技団体を統一し、同じ体育協会に加盟したり、同じ競技であれば、健常者と障がい者の大会を同時に開催したり、健常者スポーツと障がい者スポーツの壁(バリア)をなくす方向で取組を進めたら良い。

### ○スポーツによる地域の活性化について (「女性スポーツ」の推進について)

- 女性の立場として、女性に特化した取組に着目してもらえたい。

- 女性は、同性として「かっこいい女性」にあこがれるので、トップアスリートを有効に活用すると良い。
- 「女性スポーツ」を推進するためには、男性の理解が一番重要になってくる。
- 以前、伊賀FCくノ一の運営に関わっていたが、総合型地域スポーツクラブを中心として地域全体で支える体制をつくるのが大切である。
- 女性に特化することに唐突感がある。男性と女性を分けて扱う必要性をしっかりと説明する必要がある。
- なぜ「女性のスポーツ」なのかということの説明するためにも、エビデンスとなるデータを整理する必要がある。

など



### 次回の開催予定

11月中旬に第2回推進会議を開催する予定です。